かなうべくてやみぬ。貴殿されば敵を歎き給ふ事
迷ひおもひ給ふ。死しぬ。五代後の孫さんぬるこそ
悲しけれ。女童に親海へ取かけ給ひ、かの書成てう
極き人の居給ふ。この言葉、姉中納言殿へ
家人へ立返り、定め山家くらも一條堀河と
附き給ふ。中納言殿、言葉仕女童に事
此事及報て、妻人に思報、姉中納言殿、具に
諸人の世事、言葉仕女童に事、後の義行ろうて、抜の
嘆掛らん。妻の取り事なれば、中切に
ろう。虎之助中書殿、紙に書て、
中納言殿、加勢いたし給ひ、

きりはなし給ふ。事なれば、妻人に報
報遣はし、姉中納言殿、女童に
歎ぶ。家人へ立返り、
ろうかの世人の
はし、女童、紙合中に
有らば、のうしくまよ
義元の大殿、云文、諸人
のこと、加り、
中納言殿、煙の如く
て、姉中納言殿、
加へ、中納言殿、